

国語科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍 あたらしい国語 新しい国語 1 3 1 2 3 1 3 3 1 4 3 1 5 3 1 6 3 1 1 3 2 2 3 2 3 3 2 4 3 2
取 扱 内 容	○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、おもちゃの作り方を説明する活動などを取り上げており、相手に応じ、身近なことなどについて事柄の順序を考えながら話すことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、学校行事の案内状を書く活動などを取り上げており、相手や目的に応じて、調べたことが伝わるように段落相互の関係などに注意して書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、関連のある複数の本を読んで、友達に推薦する活動などを取り上げており、目的や意図に応じて、内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第3,4学年においては、リズムを感じながら百人一首を音読して、かるた遊びをする活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、教材末に学習のポイントとなる「言葉の力」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「人ぶつがしたことのじゅんじょをかんがえる」、第4学年では「つながりのある物語を読む」、第6学年では「問題を解決するために話し合う」などが取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、第1学年で発見したことを友達に書いて伝える活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で司会の進行に沿って話し合う活動、第4学年で自分の役割を考えて話し合う活動を取り扱うなど、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は4教材、「書くこと」は9教材、「読むこと」は15教材であり、総ページ数は350ページで前回より約22パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 自分の好きなものについてクイズを出し合う活動や行事について案内状を出す活動を取り上げるなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ マーク「関係のあるところ」で関連する内容のページを示す（全学年）など、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻末に「『言葉の力』をかつようしよう」（第～6学年）を掲載し、学習を振り返ることができるようすにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	学校図書 みんなと学ぶ 小学校国語 1 3 3 2 4 4 3 3 3 4 3 3 5 3 3 6 3 3 1 3 4 2 3 4 3 3 4 4 3 4 5 3 4 6 3 4
取 扱 内 容	○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、友達に知らせたいことを紹介する活動などを取り上げており、相手に応じて、身近なことについて事柄の順序を考えて話すことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、四コママンガの内容を基に物語を書く活動などを取り上げており、相手や目的に応じて、段落相互の関係などに注意しながら書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、伝記を読んでその人物の生き方を知り自分の生き方について考える活動などを取り上げており、目的に応じて、内容や要旨をとらえて読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第3,4学年においては、百人一首の短歌を音読して思い浮かべた風景について話し合う活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、各学年の教材や巻末の資料編に「国語のカギ」「授業で使う言葉」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「だんらくと主語」、第4学年では「物語の最後の一文」、第6学年では「結果と考察」などが取り扱われている。
内容 の構 成 排 列・ 分量 等	○ 内容の構成については、第1学年で「わたしのたからもの」を友達や先生に話す活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で見てきたことを基に中心に気を付けて書く活動、第4学年で見てきたことの中心をまとめて報告文を書く活動を取り扱うなど、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は4教材、「書くこと」は6教材、「読むこと」は21教材であり、総ページ数は292ページで前回より約12パーセント増となっている。
使用 上 の配 慮 等	○ 調べ学習の訪問先に依頼状と礼状を書く活動（第4学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「授業で使う言葉」（全学年）で用語を調べることができるようにするなど、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻末に「保護者の方へ」を掲載し、学習内容や身に付けることを保護者に知らせ家庭学習につなげていけるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	三省堂 小学生の国語 小学生の国語 学びを広げる					
	1 3 5	2 3 5	3 3 5	4 3 5	5 3 5	6 3 5
	1 3 6	2 3 6	3 3 6	4 3 6	5 3 6	6 3 6
取 扱 内 容	○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、コンテストに出す作品をグループで話し合って決める活動などを取り上げており、互いの話を聞き、話題に沿って話し合うことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、クラスのことを調べて報告する文章を書く活動などを取り上げており、調べたことが伝わるように段落相互の関係に注意して書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、図とそれを説明している部分を比べながら読む活動などを取り上げており、目的に応じて、文章の内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、第3,4学年において故事成語の意味を調べて登場人物や場面を想像して物語を書く活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、2年以降の教材に「覚えておきましょう」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「むかし話を楽しむ」、第4学年では「人物像をとらえる」、第6学年では「心情の変化を考える」などが取り扱われている。					
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、第1学年で「わたしのすきなもの」を友達や先生に話す活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で心の動きについてまとまりに気を付けて書く活動、第4学年でお気に入りの場所について中心に気を付けて書く活動を取り扱うなど、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は5教材、「書くこと」は10教材、「読むこと」は14教材であり、総ページ数は254ページで、前回より約18パーセント減となっている。					
使 用 上 の 配 慮 等	○ 学校行事に来てほしい人に案内状を書く活動（第3学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 別冊「学びを広げる」における「言葉のポケット」に学習のポイントを示す（第2～6学年）など、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 教科書「小学生の国語」と資料集「学びを広げる」の2分冊構成にして個に応じた学習に対応できるようにするなど、使用上の便宜が図られている。					
その他						

国語科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 ひろがる言葉小学国語 1 3 7 2 3 7 3 3 7 4 3 7 5 3 7 6 3 7 1 3 8 2 3 8 3 3 8 4 3 8 5 3 8 6 3 8
取 扱 内 容	○ 話すこと・聞くことについては、例えば第 1, 2 学年においては、グループで話し合って考えを一つにまとめる活動などを取り上げており、互いの話を聞き、話題に沿って話し合うことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第 3, 4 学年においては、図鑑で調べた生き物について説明する文章を書く活動などを取り上げており、段落相互の関係などに注意して書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第 5, 6 学年においては、印象に残った作品を推薦する「図書推薦会」を開く活動などを取り上げており、目的に応じて、内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第 3, 4 学年においては、ことわざ・慣用句などの意味を調べてカードにまとめる活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、コラム「ここが大事」において学習のポイントを示し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第 2 学年では「くりかえしのあるお話を読む」、第 4 学年では「経験と結びつけて読む」、第 6 学年では「すぐれた表現を読む」などが取り扱われている。
内容の 構成・ 排列・ 分量等	○ 内容の構成については、夏休みの絵日記を見ながら質問し合う活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第 3 学年で見学したことの中心をはっきりとさせて書く活動、第 4 学年で構成を工夫して報告文を書く活動を取り扱うなど、2 学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第 2 学年で「話すこと・聞くこと」は 4 教材、「書くこと」は 8 教材、「読むこと」は 16 教材であり、総ページ数は 296 ページで、前回より約 7 パーセント増となっている。
使用上の 配慮等	○ 最近の出来事を他の学年の人たちに伝える学級新聞を作る活動などを取り上げ、相手意識を明確にし、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「～しよう（てびき）」に学習の進め方や「ここが大事」に学習のポイントが示されるなど、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 巻末に各教材の指導事項や学習に必要な用語などをまとめた「この本で学ぶこと」を掲載し、個に応じた学習に役立てるなど使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	光村図書 国語 1 3 9 2 3 9 3 3 9 4 3 9 5 3 9 6 3 9 1 4 0 2 4 0 3 4 0 4 4 0
取 扱 内 容	○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、身近な物についてクイズを出し合う活動などを取り上げており、相手に応じて、事柄の順序を考えながら話すことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、生活の中の疑問について本で調べて報告する文章を書く活動を取り上げており、相手や目的に応じて、段落相互の関係を考え書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、新聞を読み、編集の仕方や記事の書き方などを考える活動などを取り上げており、目的に応じて、内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第3,4学年においては、定型のリズムを感じ取りながら短歌を音読したり暗唱したりする活動を取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、学習のポイントを示す「たいせつ」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「じんぶつと自分をくらべて読む」、第4学年では「特別な言葉に着目する」、第6学年では「筆者の考えに対して、自分の考えをもつために」などが取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、第1学年で「ともだちに、きいてみよう」で友達と話し合う活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で伝えたいことの中心を意識して説明文を書く活動、第4学年で内容の中心を明らかにして報告文を書く活動を取り扱うなど2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は5教材、「書くこと」は7教材、「読むこと」は15教材であり、総ページ数は276ページで、前回より約1パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 読むことの学習と日常生活との関連を示した「この本、読もう」を掲載する（全学年）など、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「学習に用いる言葉」で用語を調べることができるようにする（第3～6学年）など、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻末の付録「学習を広げよう」に補充的、発展的な学習に活用できる資料を掲載する（第2～6学年）など、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書 名 観 点	東 書 新 編 新 しい 書 写 1 3 1 2 3 1 3 3 1 4 3 1 5 3 1 6 3 1
取 扱 内 容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～画の付き方を比べる活動などを通し、文字を正しく書く。 第3,4学年～組立て方を理解する活動などを通し、文字を整えて書く。 第5,6学年～用紙に合わせて書く活動などを通し、配列を決め文字を書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形と筆の動きに注意して書く活動などを通し、点画の種類、筆圧に注意して書く。 第5,6学年～4字までの文言の題材で、文字のつながりを意識して書く活動などを通し、穂先の動きと点画のつながりを理解して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～文字の中心や筆順、組立てなど、毛筆で学んだことを生かし硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～筆順や文字の配列など、毛筆で学んだことを生かし硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～「生活にひろげよう」において、感謝状を書く活動。 第3,4学年～「生活にひろげよう」において、新聞記事を書く活動。 第5,6学年～「生活にひろげよう」において、パンフレットを書く活動。
内 容 の 構 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、他教科で活用できるようノート例を示したり、伝統文化に触れることができる教材を扱ったりするなど、学んだことを日常生活に生かすように配慮されている。 ○ 内容の排列については、毛筆について1字の漢字の画の長さ、間隔、方向の学習の後に、2字の漢字の筆順と字形の関係や硬筆との関連、平仮名の筆使いについて取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第4学年で硬筆は3ページ、毛筆は19ページであり、総ページ数は49ページで前回と同様となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 国語の教科書との関連を図った教材や、各教科の学習に活用できる教材を掲載するなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 学習過程を示したり、単元の学習に関わる全学年の既習事項を記号で示したりするなど、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭に文字に関連した教材や、目次に既習事項を想起できるイラストを掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
そ の 他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	学図 みんなと学ぶ 小学校書写 1 3 2 2 3 2 3 3 2 4 3 2 5 3 2 6 3 2
取 扱 内 容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～線の長さや方向注意する活動などを通し、文字を正しく書く。 第3,4学年～大きさや配列に注意する活動などを通し、文字を整えて書く。 第5,6学年～様々な用紙で書く活動などを通し、配列を決め文字を書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～少字数の題材で、点画の形とその形を作る筆の動きに注意しながら書く活動などを通し、点画の種類、筆圧に注意して書く。 第5,6学年～漢字仮名交じりの題材で、文字のつながりを意識して書く活動などを通し、穂先の動きと点画のつながりを理解して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～漢字の組立て、字形など、毛筆で学んだことを生かし硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～筆順と点画のつながりなど、毛筆で学んだことを生かし硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用・探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～「しりょう」において、あさがおの観察カードを書く活動。 第3,4学年～「資料」において、ローマ字で名前や地名を書く活動。 第5,6学年～「資料」において、目的に合った筆記具を選んで書く活動。
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、獲得した技能がどのような場面で使われることになるのかをノート・新聞・プレゼンなどの事例で示し、学んだことを日常生活に生かすように配慮されている。 ○ 内容の排列については、毛筆について1字の漢字の点画の接し方や交わり方の学習の後に、2字の漢字の筆順や形の関係、平仮名の筆使いを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第4学年で硬筆は12ページ、毛筆は30ページであり総ページ数は45ページで前回より10パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 学習ポイントを解説するキャラクターが登場したり、教科書と関連した教材を掲載したりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 学習過程が示され、学習を振り返って吟味する投げかけや自己評価欄を設ける（全学年）など、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭に学習のめあてが掲載されていたり（全学年）、巻末に当該学年で習う漢字が掲載されていたり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	三省堂 小学生の書写 1 3 3 2 3 3 3 3 3 4 3 3 5 3 3 6 3 3
取扱内容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～画の交わり方を比べる活動などを通し、文字を正しく書く。 第3,4学年～行の中心に留意して書く活動などを通し、文字を整えて書く。 第5,6学年～用紙に合わせて書く活動などを通し、配列を決め文字を書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～2字までの漢字や平仮名の題材で、点画の形と筆の動きに注意して書く活動などを通し、点画の種類、筆圧に注意して書く。 第5,6学年～漢字仮名交じりの題材で、文字のつながりを理解して書く活動などを通し、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～文字の組立て方、配列など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～書く速さと点画など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用・探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～「ひろげよう」において、お礼の手紙を書く活動。 第3,4学年～「ひろげよう」において、見学したことを新聞に書く活動。 第5,6学年～「ひろげよう」において、よびかけのポスターを書く活動。
内容の構成・分量等	○ 内容の構成については、学校生活における様々な書く場面を取り上げたり、グループや学級で役割分担をしながら取り組む活動を設定したりするなど、学んだことを日常生活に生かすように配慮されている。 ○ 内容の排列については、毛筆について1字の漢字の「曲がり、そり」などの点画の学習の後に、2字の漢字の筆順、字形、文字の組立て方や平仮名の筆使いを取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第4学年で硬筆は5ページ、毛筆は30ページであり、総ページ数は45ページで前回より約2パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 学びの手順を分かりやすく示したり、学習のポイントを簡潔な言葉で表現したりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 教科書に書き込める欄を随所に設けたり、学習を振り返る「確かめよう」を設定したりするなど、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭には書写に関連した教材を掲載したり（全学年）、書き初めを取り上げたり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	教出 小学 書写 1 3 4 2 3 4 3 3 4 4 3 4 5 3 4 6 3 4
取扱内容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～画の方向に気を付けて書く活動などを通し、文字を正しく書く。 第3,4学年～筆順に気を付けて書く活動などを通し、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～様々な用紙に書く活動などを通し、大きさや配列を決めて書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形と筆の運び方に注意して書く活動などを通し、点画の種類を理解して書く。 第5,6学年～漢字仮名交じりの文言題材で、点画相互、文字のつながりを意識理解して書く活動などを通し、穂先の動きを理解して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～毛筆で学んだ筆圧や筆使い、筆順と点画の接し方を生かして硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～目的にあった筆記具の利用など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通し、書写の能力の基礎を身につける。 ○ 知識・技能の習得、活用・探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～「書いてつたえよう」において、招待状を書く活動。 第3,4学年～「書いてつたえよう」において、読書カードや新聞を書く活動。 第5,6学年～「書いてつたえよう」において、ポスターや文集を書く活動。
内容の構成・分量等	○ 内容の構成については、各学年の硬筆教材を「おおきなかぶ」など国語の教科書から取り入れたり、手紙やはがき、掲示物の書き方を示したりするなど、学んだことを日常生活に生かすように配慮されている。 ○ 内容の排列については、毛筆について基本点画を反復し、穂先の向きと画の方向の学習の後に、2字の漢字の筆順と字形の関係や平仮名の筆使いについて取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第4学年で硬筆は8ページ、毛筆は33ページであり、総ページ数は57ページで、前回よりも10パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 基本的な書き方について「書写の体操」を設けたり、「穂先の通り道」を分かりやすく示したりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 学びの初め終わりに「ためし・まとめ」をする欄を設け、学習の成果を確認できるなど（3～6年）児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭に書写に関連した教材を掲載したり、繰り返し確認できるよう裏表紙に筆記具の持ち方を示したり（全学年）するなど使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	光村 書写 1 3 5 2 3 5 3 3 5 4 3 5 5 3 5 6 3 5
取扱内容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～画の付き方を考えて書く活動などを通し、文字を正しく書く。 第3,4学年～字形の違いを考え書く活動などを通し、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～用紙の大きさを考えて書く活動などを通し、配列を決めて書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形とその形を作る筆の運び方に注意して書く活動などを通し、筆圧に注意して書く。 第5,6学年～漢字仮名交じりの文言題材で、点画相互、文字のつながりを意識理解して書く活動などを通し、点画のつながりを理解して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～毛筆で学んだ点画の筆使いや文字の配列を生かして硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～毛筆で学んだ穂先の動きや文字の大きさ、配列を生かして硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用・探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～「しりょう」において、観察カードや手紙を書く活動。 第3,4学年～「しりょう」において、はがきや新聞を書く活動。 第5,6学年～「資料」において、ノートやメモを書く活動。
内容の構成・分量等	○ 内容の構成については、各学年の巻末に資料を掲載し、手紙や原稿用紙、新聞、聞きとりメモの例をいつでも参照できるように整理するなど、学んだことを日常生活に生かすように配慮されている。 ○ 内容の排列については、毛筆について漢字の筆順と画の付き方や、部分の組立方の学習の後に、平仮名の筆使いや2字の漢字の大きさについて取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第4学年で硬筆は7ページ、毛筆は34ページであり、総ページ数は49ページで、前回より2パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 運筆リズムをイラストや図、擬態語で表現したり、成果を確認できる自己評価欄を設けたりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 文字を書くときのポイントを整理し、他の字を書くときに生かせるよう示した「たいせつ」を設け、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭には「学習の進め方」を掲載したり（4～6年）、巻末に書写に関連したコラム記事を掲載したり（2～5年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	日文 小学書写 1 3 6 2 3 6 3 3 6 4 3 6 5 3 6 6 3 6
取 扱 内 容	○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1,2学年～画の交わり方を考えて書く活動などを通し、文字を正しく書く。 第3,4学年～字の組立てを考え書く活動などを通し、文字の形を整えて書く。 第5,6学年～様々な用紙に合わせて書く活動などを通し、配列を決めて書く。 ○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形と筆の運び方に注意して書く活動などを通し、点画の種類を理解しながら書く。 第5,6学年～漢字仮名交じりの文言題材で、点画相互、文字のつながりを意識して書く活動などを通し、穂先の動きやつながりを理解して書く。 ○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第3,4学年～毛筆で学んだ文字の組立てや筆順と字形を生かして硬筆で書く活動などを通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 第5,6学年～目的にあった筆記具の利用など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通し、書写の能力の基礎を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用・探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1,2学年～「広がり学び」において、絵日記や年賀状に書く活動。 第3,4学年～「広がる学び」において、お礼の手紙や学級や新聞を書く活動。 第5,6学年～「広がる学び」において、ポスターやメモを書く活動。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、各学年に応じて、はがきや手紙、メモ、ポスターなど実用的な書式を教材化することにより言語感覚を養い、学んだことを日常生活に生かすように配慮されている。 ○ 内容の排列については、毛筆について1字の漢字の基本点画や画の長さ、間隔、方向の学習の後に、2字の漢字の筆順と字形の関係、部分の組立てについて取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第4学年で硬筆は11ページ、毛筆は37ページであり、総ページ数は52ページで、前回と同様になっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 目標の達成に向けたヒントを投げかけるキャラクターを使用したり、自己評価欄を設けたりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 毛筆教材に「副教材」を設定し、主教材での学習を別の文字に生かす活動を取り上げるなど、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭に「学習のめあて」を掲載したり、巻末に次学年の学習を掲載したり（2,4,5学年）するなど使用上の便宜が図られている。
そ の 他	

社会科調査研究報告書

書 名 観 点	東京書籍 新編 新しい社会 3 3 1 3 3 2 5 3 1 5 3 2 6 3 1 6 3 2
取 扱 内 容	○ 地域社会に関する内容については、地域の文化財や年中行事を受け継いでいる人々について調べたり、史料館を利用して地域の用水路について調べたりする学習活動を取り上げており、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができるようになっている。 ○ 我が国の国土と産業に関する内容については、北方領土などの日本の国土の様子を地図で調べたり、地域医療や教育で利用されている情報ネットワークについて調べたりする学習活動などを取り上げており、国土に対する愛情や社会の情報化についての関心を深めることができるようになっている。 ○ 我が国の歴史と政治、国際理解に関する内容については、茶の湯を体験して室町文化の特色をレポートにまとめたり、地球の環境問題と持続可能な社会について調べたりする学習活動などを取り上げており、我が国の歴史や伝統を大切に、世界の人々と共に生きていくことについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、各学年において「まなび方コーナー」を設け、「見る・聞く・ふれる」などの知識・技能を活用する活動が位置付けられている。具体的には、第3,4学年ではごみの処理と利用の学習の中で「カードにまとめて発表する」、第5学年では米づくりの学習の中で「米づくりについて提案する」、第6学年では明治の国づくりの学習の中で「明治維新の人物関係図をつくる」などが取り扱われている。
内 容 の 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、地域の発展に尽くした先人の具体的事例として、開発と教育などの事例を取り上げ、地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるなどのように配慮されている。 ○ 内容の排列については、第6学年の「わたしたちの生活と政治」の学習において、人々の願いを実現する市の政治の働きについて学習した後、国の政治の仕組みや日本国憲法の働きへと視点が広がっていくように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3,4学年が16パーセント増、第5学年が20パーセント増、第6学年が16パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 大規模な農業を行っている十勝地方の事例を掲載するとともに、アイヌの人々の文化を紹介するなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 第6学年では、自分たちにできる政治参加について考える活動を設定するなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 目次に「見る・聞く・ふれる」、「読み取る」などの学び方のコラムを示すなど、使用上の便宜が図られている。
そ の 他	○ 第5学年「日本の国土の広がり」と領土」では、北方領土・竹島・尖閣諸島の位置を地図中に示し、日本固有の領土であることが明記されている。

社会科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 小学社会 3 3 3 3 3 4 5 3 3 5 3 4 6 3 3 6 3 4
取 扱 内 容	○ 地域社会に関する内容については、地域に伝わる祭りなどの年中行事を受け継いでいる人々について調べたり、古い地図から地域の新田開発について調べたりする学習活動を取り上げており、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができるようになっている。 ○ 我が国の国土と産業に関する内容については、北方領土などの日本の国土の様子を地図で調べたり、地域の医療や福祉で利用されている情報ネットワークについて調べたりする学習活動を取り上げており、国土に対する愛情や社会の情報化についての関心を深めることができるようになっている。 ○ 我が国の歴史と政治、国際理解に関する内容については、茶の湯や生け花などを通して室町文化と現在の暮らしのつながりを考えたり、科学や技術、社会の在り方やくらしから、持続可能な社会について調べたりする学習活動を取り上げており、我が国の歴史や伝統を大切に、世界の人々と共に生きていくことについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、各学年において「まとめる」「ふかめる」などの知識・技能を活用する活動が位置付けられている。具体的には、第3,4学年では県の地形や産業にかかわる学習の後に「県の特徴を生かしたパンフレット作り」、第5学年では食料生産の学習を基に「食料生産に関する新聞づくり」、第6学年では歴史学習の後に「歴史上の人物や出来事から学んだことへの意見文」などが取り扱われている。
内 容 の 排 構 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について、開発、教育などの事例を取り上げ、地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、第6学年の「世界の中の日本」では、韓国・アメリカ・中国・サウジアラビアの事例を取り上げ、児童の興味・関心に応じて内容を選択できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3,4学年で5パーセント減、第5学年が3パーセント減、6学年で5パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 北方領土の周りで漁業を行っている根室市の事例や、アイヌの人々の歴史や文化について掲載するなど、児童の意欲が高まるように工夫されている。 ○ 第6学年では、現代社会の課題と自分とのかかわりについてまとめる活動を設定するなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭に学習の進め方や教科書の活用の仕方、巻末に学習した内容をまとめた日本地図を示すなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○ 第5学年「わたしたちのくらしと国土」では、北方領土・竹島・尖閣諸島の位置を地図中に示し、日本固有の領土であることが明記されている。

社会科調査研究報告書

書名 観点	光村図書 社会 3 3 5 3 3 6 5 3 5 6 3 5
取 扱 内 容	○ 地域社会に関する内容については、地域に伝わる郷土の芸能を受け継いでいる人々について調べたり、昔の人たちの治水工事について調べたりする学習活動を取り上げており、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができるようになっている。 ○ 我が国の国土と産業に関する内容については、北方領土などの日本の国土の様子を地図で調べたり、地域の医療や防災で利用されている情報ネットワークについて調べたりする学習活動を取り上げており、国土に対する愛情や社会の情報化について関心を深めることができるようになっている。 ○ 我が国の歴史と政治、国際理解に関する内容については、茶の湯や水墨画などの室町文化を体験して感想を交流したり、世界各国が協力して行う支援活動について調べたりする活動などが取り上げており、我が国の歴史や伝統を大切にし、世界の人々と共に生きていくことについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、各単元の終末に「まとめる・広げる」などの知識・技能を活用する活動が位置付けられている。具体的には、第3,4学年では「行ってみたい県への旅行計画書の作成及び発表」、第5学年では「10年後の自動車の企画書の作成と見学でお世話になった自動車工場の人への送付」、第6学年では「開国から明治期に活躍した人たちの人物事典の作成」などが取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、地域の発展に尽くした先人の具体的事例として、開発と教育などの事例を取り上げ、地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、第6学年の「みんなの願いと政治の働き」において、人々の願いを実現する市の政治の動きについて学習した後、国の政治へと視点が広がっていくように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3,4学年が9パーセント減、第5学年が2パーセント増、第6学年が4パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 第5学年で旭川市のお家のつくり、第6学年でアイヌの人々との交易について掲載するなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 第6学年では、世界で起きている問題に対する意見文を書く活動を設定するなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻頭の「教科書をヒントに学習を進めよう」で教科書の活用方法を示すなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○ 第5学年「日本の国土」では、北方領土・竹島・尖閣諸島の位置を地図中に示し、日本固有の領土であることが明記されている。

社会科調査研究報告書

書名 観点	日本文教出版 小学社会 3 3 7 3 3 8 5 3 7 5 3 8 6 3 7 6 3 8
取 扱 内 容	○ 地域社会に関する内容については、地域に伝わる祭りを受け継いでいる人々について調べたり、郷土資料館を利用して堤防や港の建設など地域の開発に尽くした人々について調べたりする学習活動を取り上げており、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができるようになっている。 ○ 我が国の国土と産業に関する内容については、北方領土などの日本の国土の様子を地図で調べたり、地域の医療や防災で利用されている情報ネットワークについて調べたりする学習活動を取り上げており、国土に対する愛情や社会の情報化についての関心を深めることができるようになっている。 ○ 我が国の歴史と政治、国際理解に関する内容については、能の体験を通して室町文化と現在の暮らしのつながりを考えたり、地球の環境問題と国連の働きについて調べたりする学習活動を取り上げており、我が国の歴史や伝統を大切にし、世界の人々と共に生きていくことについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、単元の最後に「ふりかえってみよう」などの知識・技能を活用する活動が位置付けられている。具体的には、第3,4学年では「安全な暮らしを守る」において校区の安全マップ作り、第5学年では「工業生産とわたしたちの暮らし」において自分の考えを発表する活動、第6学年では「天下統一と江戸幕府」において4人の武将が作り出した社会の仕組みについて図にまとめる活動などが取り扱われている。
内 容 の 排 構 列 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について、開発、環境保全などの事例を取り上げるなど、地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、第6学年の「日本とつながりの深い国々」について、韓国、中国、アメリカ、ブラジルなどの事例を取り上げ、取り扱う内容を選択できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページ数で、第3,4学年が前回同様、第5学年が12パーセント増、第6学年が16パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 自然保護に関する知床半島や釧路湿原の事例や、アイヌの人々の歴史や文化を掲載するなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 第6学年では、自分や学校生活と憲法との関係を考える活動を設定するなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 「キーワード」や「考えるヒント」などの、言葉の説明や学習のヒントが掲載されているなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○ 第5学年「日本の国土と人々の暮らし」では、北方領土・竹島・尖閣諸島の位置を地図中に示し、日本固有の領土であることが明記されている。

地図（社会）科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍 新編 新しい地図帳 第4・5・6学年
取 扱 内 容	○ 各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・ 地域の人々の社会生活の様子をとらえたり、その特色や相互の関連などを考えたりすることについては、都道府県の形や文字、位置に着目したクイズや自分が住んでいる都道府県の位置の確認など、都道府県の位置と名称、都道府県の様子や地域（福岡県・大阪府・愛知県・東京都）を詳しく学習する活動を通して、地図や具体的資料を活用し、その特色などを考える活動 ・ 我が国の国土や産業に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味について考えたりすることについては、地球儀を回転させながら世界の地図とともに世界の主な大陸と海洋の位置や日本の都市と外国の都市の距離、方位大陸の大きさや形を確かめる活動を通して、地図帳や地球儀、統計（日本の貿易）等の基本的資料を活用して調べる活動 ・ 我が国の歴史と政治及び国際社会に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味をより広い視野から考えたりすることについては、我が国の世界文化遺産や世界自然遺産に登録された場所を探す活動を通して、歴史に関する社会的事象について地図や資料を活用して調べる活動 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、地図上のある地点から見た方向を考えたり、距離について様々な縮尺で計ったりするなど、地図の表記のきまりについての基礎的な知識・技能を習得させる活動や、日本の地形や気候などとの関係から自然災害の起きる要因や防災対策について考えたり、北海道の水産物・農産物・工業生産の生産量について考えたりするなど、習得した知識・技能を活用するための具体的な活動が取り上げられている。
内 容 の 排 構 列 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、巻頭の「ながめてみよう日本のすがた」「日本の地形」により、世界遺産の写真も入れて日本列島を概観した後に「地図帳の使い方」、都道府県の地方図、都市部の拡大図、「世界の地図」を取り扱っている。 ○ 内容の排列については、日本や世界の自然や産業、歴史や文化等の「資料・統計」を排列し、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、「地図帳の使い方」が4ページ、「日本の全国図」が14ページ、「日本の地方図」が32ページ、「世界の地図」が15ページ、「資料・統計」が29ページであり、総ページは94ページで、前回より21パーセント増となっている。（A B判からA 4判に変更）
使 用 上 の 配 慮 等	○ 写真や模式図、イラスト等の多様な表現を用いたり、北海道ではアイヌ語に由来している地名を調べたりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ キャラクターのセリフによって地図の活用の着目点を示したり、日本や世界の産業や自然にかかわる「資料・統計」では、関連するページを示して作業を指示したりするなど、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。
その他	○ 北方領土・竹島・尖閣諸島の位置が「日本列島」の中に示されている。

地図（社会）調査研究報告書

書名 観点	帝国書院 楽しく学ぶ小学生の地図帳 4・5・6年生
取 扱 内 容	○ 各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・ 地域の人々の社会生活の様子をとらえたり、その特色や相互の関連などを考えたりすることについては、身近な地域や市（区、町、村）について、社会生活の様子（具体的にはオホーツク海沿岸）や土地利用の様子、主な公共施設などの場所、都道府県の名称や位置に着目し、クイズや紹介文を作成する活動を通して、地図や具体的資料を活用し、その特色などを考える活動 ・ 我が国の国土や産業に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味について考えたりすることについては、世界各地の主なまつりや日本と同じ緯度の国を探すなどの世界の国名と場所を覚える活動や、我が国の端にある島々を確認しながら国土の大きさを知る活動を通して、地図帳や地球儀、基本的な資料などを活用して調べる活動 ・ 我が国の歴史と政治及び国際社会に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味をより広い視野から考えたりすることについては、今の都道府県の昔の名前を調べる活動や歴史上の主な出来事と場所を探す活動を通して、歴史に関する社会的事象について地図や資料を活用して調べる活動 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、主な地図記号を地図中から探したり、方位や縮尺、高さについて考えたりするなど、地図の表記のきまりについての基礎的な知識・技能を習得させる活動や、災害を防ぐ工夫、災害時の身の守り方（防災マップ）について実践的に考えたり、十勝平野の畑作や、流氷が押し寄せる網走付近の人々の生活の様子について考えるなど、習得した知識・技能を活用するための具体的な活動が取り上げられている。
内 容 の 構 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、巻頭の「地図のなりたちとよくそくごと」、「地図帳の使い方」の後に日本列島を概観する「日本とそのまわり」、日本列島全図があり、都道府県の地図、都市部の拡大図、「世界の地図」を取り扱っている。 ○ 内容の排列については、日本の自然や産業、歴史、日本と世界の結びつき等の「資料・統計」を排列し系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、「地図帳の使い方」が6ページ、「日本の全図」が12ページ、「日本の地方図」が32ページ、「世界の地図」が17ページ、「資料・統計」が19ページであり、総ページは86ページで、前回と同様となっている。（前回と同様A B判を使用）
使 用 上 の 配 慮 等	○ 写真、絵地図、鳥瞰図、イラスト等の多様な表現を用いたり、降雪地や流氷が接岸する地域の工夫を確認したりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 児童の視点に立ったキャラクターのセリフによって地図の着目点を示したり、「ノートコーナー」では理解を深める説明や解説、作業を指示したりするなど、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。
その他	○ 北方領土・竹島・尖閣諸島の位置が示され、写真と解説が明記されている。

算数科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍	新しい算数
	1 3 1 2 3 1 3 3 1 4 3 1 5 3 1 6 3 1 1 3 2 2 3 2 3 3 2 4 3 2 5 3 2	
取 扱 内 容	○ 数と計算については、棚にしまうじょうろの合計の数を求めたり、水槽に残った金魚の数を求めたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、式に合わせておはじきを並べたりする活動を通して、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を移動して面積を求める、図形の高さを考えたりする活動や、直方体と四角柱の体積の求め方を比べたり、円柱を変形して体積を求めたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積の求め方や、角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、円周上の3点を結んで色々な三角形をかき、辺の長さに注目して仲間分けしたりする活動や、四角形を平行の組数で仲間分けしたり、身の回りの垂直や平行を探したりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形、平行四辺形などの性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、都道府県別のみかんの収穫量を比べたり、アンケート結果をグラフで表したりする活動や、卵の重さを比べたり、重いサツマイモがよく採れた班を調べたりする活動を通して、円グラフ、帯グラフの読み方や書き方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・理解の習得、活用、探究については、「どんな数が読めるかな？」や「おもしろ問題にチャレンジ」のページなどを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、学校にある靴箱の数について、4位数までの表し方を扱うなど補充的な学習、除法の筆算について、4位数の計算を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。	
内容 の構 成 排 列・ 分 量 等	○ 内容の構成については、車の色を塗りながら数を数えていく問題、何時何分を求める問題など児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、数と計算では札幌市の人口を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数第二位までの小数の乗法の学習の後に、小数第二位までの小数の除法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページ数は259ページで、前回より約11パーセント増となっている。	
使 用 上 の配 慮 等	○ 「考えよう伝えよう」のページで式や図を使って児童の考え方を示すなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 巻末に「補充問題」のページを掲載し、1人で練習や答え合わせをするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 巻頭に教科書の使い方を示す「新しい算数を使って学習しよう」のページを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。	
その他		

算数科調査研究報告書

書名 観点	大日本図書 新版たのしい算数 1 3 3 2 3 3 3 3 3 4 3 3 5 3 3 6 3 3
取 扱 内 容	○ 数と計算については、水槽に入れる金魚の数を数えたり、絵を見てひき算のお話を作ったりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、求める式を立てたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を移動して面積を求めたり、長方形と平行四辺形の面積を比べたりする活動や、直方体と角柱の体積の求め方を比べたり、底面に着目して体積を求めたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いくつかの三角形を仲間分けしたり、コンパスを使ってかいたりする活動や、いくつかの四角形を仲間分けしたり、平行四辺形をかいたりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形、及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、リンゴの取れ高をグラフから読み取ったり、人口をグラフに表したりする活動や、ソフトボール投げの記録を表にまとめたり、柱状グラフに表したりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「何本になるのかな」や「もっと算数たまてばこ」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、遊園地に咲いている花の数について、簡単な3位数の加法や減法を扱うなどの補充的な学習、直角三角形について、面積の求め方を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。
内 容 の 構 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、鉛筆の数を数える問題やお菓子やかざりの数の違いを求める問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、折れ線グラフに表す問題では札幌市の人口を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、異分母の分数の加法や減法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページ数は247ページで、前回とほぼ同様となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「算数たまてばこ」や「わくわく算数ミュージアム」で興味・関心を高める教材や話題を取り上げるなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ ノートの書き方の例を示した「算数の学び方」や単元末に「復習」を位置付けるなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「まとめの練習」や「教科書にでてきた大切なことがら」のページで学習の振り返りや重要事項を示すなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

算数科調査研究報告書

書名 観点	学校図書 みんなと学ぶ小学校算数 1 3 4 2 3 4 3 3 4 4 3 4 5 3 4 6 3 4 2 3 5 3 3 5 4 3 5 6 3 5
取 扱 内 容	○ 数と計算については、花瓶に入れる花の数を数えたり、かごに残ったリンゴの数を考えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、一円玉を積み重ねて九九の表を作ったりする活動を通して、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を分割して既習の図形に表したり、考え方の相違点を見付けたりする活動や、高さ 1 cm の四角柱の体積と底面積を比べたり、紙の円を積み重ねて作った体積を調べたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や、角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いろいろな長さのストローで三角形を作ったり、いくつかの三角形を仲間分けしたりする活動や、地図記号から平行な直線を見付ける活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、米の収穫量をグラフに表したり、交通事故の原因別人数を調べたりする活動や、ソフトボール投げの記録の散らばりの様子を比べる活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「ふくしゅう 1」や「いろいろなわり算」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、グラウンドを走った周回数について、棒グラフの表し方を扱うなどの補充的な学習、除法の筆算について、外国の除法の仕方を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 成 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、動物の絵を見て数を比べる問題や、果物の数を求める問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、人口密度を調べる問題では北海道の人口や面積を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、分数の加法や減法、分数の乗法や除法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第 5 学年の総ページ数は 290 ページで、前回より約 5 パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「算数探検隊」のページで、身近な事象や教材を写真で紹介するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「ノート名人になろう」のページで、ノートのまとめ方を示すなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「力だめし」のページで、問題の趣旨を確認して振り返る自己評価欄を設けるなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

算数科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 小学算数					
	1 3 6	2 3 6	3 3 6	4 3 6	5 3 6	6 3 6
		2 3 7	3 3 7	4 3 7		
取 扱 内 容	○ 数と計算については、食べ物の個数を加える場面を考えたり、動物の数が減る場面を考えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、おはじきを使ってかけ算を表したりする活動を通して、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を移動して既習の図形にしたり、2つの図形を合わせて面積を考えたりする活動や厚みのあるいくつかのメモ帳を比較したり、四角柱の体積の求め方を考えたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、ストローで作った三角形を分類したり、コンパスで三角形をかいたりする活動や、平行四辺形の特徴を調べたり、コンパスを使ってひし形をかいたりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、リンゴの出荷量をグラフに表したり、学校の数の割合を調べたりする活動や、ソフトボール投げの記録を比べたり、握力測定の記録を柱状グラフに表したりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「学習をふり返ろう」や「算数メモ」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、たし算の筆算について、間違いを説明し正しく計算することを扱うなどの補充的な学習、時計の長針について、針が2回転したときの角度を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。					
内 容 の 構 成 排 成 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、順番から列の人数を求める問題やデザートの数を表やグラフに表す問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、人口密度を求める問題では札幌市の人口を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、分数の加法や減法の意味や計算の仕方を理解する学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページ数は274ページで、前回より約1パーセント増となっている。					
使 用 上 の 配 慮 等	○ キャラクターで考えを示したり、「広がる算数」で、発展的・総合的な見方を育てるコラムを掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ レベル別問題を設定した「ステップアップ算数」や前学年までのまとめを示した「学びのマップ」など、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 表紙の裏に当該学年の学習内容に関連のある建造物や風景などを掲載するとともに、目次に既習の学習内容との関連を示すなど、使用上の便宜が図られている。					
その他						

算数科調査研究報告書

書名 観点	啓林館 わくわく算数					
	1 3 8	2 3 8	3 3 8	4 3 8	5 3 8	6 3 8
		2 3 9	3 3 9	4 3 9		
取 扱 内 容	○ 数と計算については、絵を見てたし算になる話を作ったり、色の違う花の本数の差を考えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。また、座っている子どもの人数を求めたり、かけ算となる問題カードを作成したりする活動を通して、整数の乗法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を写し取って比べたり、図形を分割して面積を求めたりする活動や、直方体の体積を利用して角柱の体積を求めたり、体積の求め方の公式を考えたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いくつかの三角形の共通点を見つけて仲間分けしたり、点をつないで四角形を作ったりする活動や、コンパスを使ってかく活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、農産物の収穫量をグラフに表したり、空き缶の個数の割合を調べたりする活動や、ボール投げの結果をグラフに表したり、男女別人口の割合を読み取ったりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「準備運動」や「学びをいかそう」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、クリをいくつかの皿に分ける場合について、除法を使う場面を扱うなどの補充的な学習、時計の長針について、回転する角度の求め方を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。					
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、標識の数を答える問題やペンや鉛筆の長さを比べる問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、概数や割合の問題で、北海道や都市の人口、面積を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、異分母分数の加法や減法、整数と分数の乗法や除法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年で総ページが277ページで、前回よりも約4パーセント増となっている。					
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「発見算数島」のページで児童が興味・関心に応じて問題に取り組めるようにするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 新しい単元の最初に「準備」があったり、複数の考え方を取り上げたりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 巻頭の「算数のとびら」で教科書の使い方や学習の進め方を掲載し、巻末の「まとめ」で学習内容の要点を押さえるなど、使用上の便宜が図られている。					
その他						

算数科調査研究報告書

書名 観点	日本文教出版 小学算数					
	1 4 0	2 4 0	3 4 0	4 4 0	5 4 0	6 4 0
		2 4 1	3 4 1	4 4 1	5 4 1	6 4 1
取 扱 内 容	○ 数と計算については、水槽に入れる金魚の数を求めたり、残った果物の数を数えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を調べたり、鉛筆を同じ本数ずつ配る場面を考えたりする活動を通して、整数の乗法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、平行四辺形を切り貼りしたり、三角形を等積変形するようにかいたりする活動や、体積が一番大きい立体を見付けたり、身の回りにあるもののおよその体積を考えたりする活動を通して、三角形や平行四辺形の面積や、角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いろいろな長さのストローを用いて三角形を作ったり、三角形を仲間分けしたりする活動や、いろいろな形の四角形を作ったり、身の回りの四角形を探したりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、都道府県別果物の生産量の割合を調べたり、日本の地方別面積を調べたりする活動や、ソフトボール投げの記録を比べたり、50m走の記録をグラフに表したりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「選んで学ぼうぐっとチャレンジ」「いち・に・算活」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるよう工夫されている。例えば、次の単元について、学習に必要な知識や技能の定着を図る補充的な学習、単元で学習した内容について活用する発展的な学習が取り扱われている。					
内 容 の 構 成 排 成 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、並んでいる果物の順番を答える問題など児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、大きな数の導入に北海道産ばれいしょ、たまねぎの数が取り上げられている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、分数の加法や減法の意味や計算の工夫を理解する学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページは304ページで、前回より約17パーセント増となっている。					
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「次の学習のために」や「いち・に・算活」のページで既習内容の復習や活動の手順を示すなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 学習に関係のあるコラムやゲーム的要素のある練習問題を取り上げるなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「学び方ガイド」や「算数で使いたいことば・考え方」で発表手順や方法の例など、使用上の便宜が図られている。					
その他						

理科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍 新編 新しい理科 3 3 1 4 3 1 5 3 1 6 3 1
取 扱 内 容	○ 物質・エネルギーについては、鏡ではね返した日光を重ねたものを温めるソーラークッカーを作り調理してみる活動、乾電池や光電池を使ってモーターで走る車を作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や電気の働きなどについて考えることができるようになっている。また、水の量や温度を変えて水に溶ける食塩の量を調べる実験、てこやてんびんを利用したはかりを作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や規則性などについて考えることができるようになっている。 ○ 生命・地球については、モンシロチョウの育ち方や体のつくり、トンボやバッタの育ち方の観察、人の腕や脚のつくりと動き方を調べる観察を通して、生物を愛護するとともに、生物の成長のきまりや体のつくり、人の体のつくりと運動などについて考えることができるようになっている。また、メダカを飼育し、受精したたまごの変化の観察、吐き出した空気と吸う空気との違いを調べる実験を通して、生命の連続性や生物の体の働きなどについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「方位磁針」、「実験用ガスこんろ」、「正座早見」、「解剖顕微鏡」、「双眼実体顕微鏡」、「リトマス紙」、「気体検知管」などの観察・実験器具の使い方を習得する活動及び方位磁針の特徴、直列回路と比較して並列回路の特徴、季節ごとの天気の特徴、太陽・月・地球の大きさの違いと地球からの距離を理解するなどの発展的な学習が取り扱われている。
内容 の排 構列 成・ 分量 等	○ 内容の構成については、オホーツク管内にも生息しているモンシロチョウやアゲハチョウなどの生き物を取り上げ観察ができ、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、「太陽と月の形」で月の満ち欠けについてのモデル実験の前に、月の観察と天体の特徴がとらえられるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3学年が13パーセント増、第4学年が14パーセント増、第5学年が14パーセント増、第6学年が18パーセント増となっている。
使用 上の 配慮 等	○ 「資料」では、学習内容が社会に生かされていることを紹介し理科を学ぶ意義をとらえられるようにし児童の学習意欲を高めるように工夫されている。 ○ 「わたしの研究」では、研究のテーマの決め方、調べ方、まとめ方などを示し児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 資料に観察・実験器具の使い方などに関する内容をまとめ、必要なときに確認できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
その他	

理科調査研究報告書

書名 観点	大日本図書 新版 たのしい理科 3 3 2 4 3 2 5 3 2 6 3 2
取 扱 内 容	○ 物質・エネルギーについては、粘土やアルミニウム箔の形を変えて重さを調べる実験、電池で動くおもちゃを作る活動を通して、物の性質や電気の働きなどについて考えることができるようになっている。また、食塩やホウ酸が水に量を調べる実験、電磁石の性質を利用したおもちゃを作るものづくり、酸素や二酸化炭素などの物を燃やす働きを調べる実験、つり合いを利用した道具やおもちゃを作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や規則性についてとらえることができるようになっている。 ○ 生命・地球については、ヒマワリの観察、腕を曲げたり伸ばしたりするときの骨と筋肉の働きを調べる観察などの活動を通して、生物を愛護するとともに、人の体のつくりと運動などについて考えることができるようになっている。また、アサガオの花のつくりの観察、吐き出した空気の違いを調べる実験、水の流れ方と流れる水の働きを調べる実験などの活動を通して、生命を尊重するとともに生物の体の働き、生命の連続性、流水の働きなどについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「方位磁針」「温度計」「星座早見」「アルコールランプ」「双眼実体顕微鏡」「電子てんびん」「駒込ピペット」「コンデンサー」などの観察・実験器具の使い方を習得する活動及び方位磁針の性質を基に地球も磁石であることを理解する、エタノールが温度により状態が変化することを理解する、植物の蒸散を利用して建物の室温の上昇を抑える工夫を理解するなどの発展的な学習が取り扱われている。
内容の 構成・ 分量 等	○ 内容の構成については、実社会、実生活に使われている例として札幌市にある時計台とふりこの写真を掲載することで児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、「ものの燃え方」では、日常生活の経験と関連付けながら燃える仕組みについて考えるなど、系統的・発展的に学習ができるように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3学年が6パーセント増、第4学年が前回と同様、第5学年が5パーセント増、第6学年が7パーセント増となっている。
使用上の 配慮等	○ コラム「りかのたまてばこ」では、学習内容が実社会、実生活に使われていることを紹介し、児童の学習意欲を高めるように工夫されている。 ○ 「理科の学び方」では、研究の計画の立て方、調べ方、まとめ方などを示し、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 安全に対して配慮が必要な箇所に「注意」マークを付けたり（全学年）、文章を単語や文節で改行したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

理科調査研究報告書

書 名 観 点	学校図書 新版 たのしい理科 3 3 3 4 3 3 5 3 3 6 3 3
取 扱 内 容	○ 物質・エネルギーについては、粘土や空き缶の形を変えて重さを調べる実験、乾電池で動く自動車を作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や電気の働きなどについて考えることができるようになっている。また、食塩やミョウバンが水に溶ける量を調べる実験、電磁石を利用したコイルモーターを作るものづくり、物を燃やした後の空気や物の変化を調べる実験、粘土をおもりにしたてんびんを作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や規則性などについて考えることができるようになっている。 ○ 生命・地球については、ヒマワリの栽培、人の腕や手のつくりを調べる観察などの活動を通して、生物を愛護するとともに、人の体のつくりと運動などについて考えることができるようになっている。また、ヘチマやアサガオの花のつくりの観察、土の山に水を流し地面を流れる水の働きを調べる実験、吐き出した空気を調べる実験、月や太陽の表面の様子を調べる観察などの活動を通して、生命を愛護するとともに、水の働き、体の働き、月の位置や特徴などについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「虫眼鏡」「デジタルはかり」「星座早見」「ガスバーナー」「解剖顕微鏡」「メスシリンダー」「リトマス紙」「気体検知管」などの観察・実験器具の使い方を習得する活動及び金属の性質の共通性や違いを理解する、日本各地の冬の天気の違いを理解する、生物は食べる・食べられるの関係でつながっていることを理解するなどの発展的な学習が取り扱われている。
内 容 の 排 構 列 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、火山灰を含む煙を噴き上げる有珠山の写真を掲載したり、登別市の温泉が湧き出ているところを取り上げたりするなど、児童の学習意欲を高めるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、「電気と私たちの生活」では、児童の先行経験・生活経験と関連付けながら学習が進めるなど、系統的・発展的に学習ができるように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3学年が4パーセント増、第4学年が6パーセント増、第5学年が15パーセント増、第6学年が19パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ コラム「読み物」では、学習内容が日常生活に生かされていることを紹介し、児童の学習意欲を高めるように工夫されている。 ○ 特集ページの「考えよう。調べよう」では、記録の仕方、まとめ方などを示し児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 安全に対して配慮が必要な箇所に「注意」マークを付けたり（全学年）、実験器具の使い方などを写真と対応させるなど、使用上の便宜が図られている。
そ の 他	

理科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 みらいをひらく小学理科 3 3 4 4 3 4 5 3 4 6 3 4
取 扱 内 容	○ 物質・エネルギーについては、粘土の形を変える前と変えた後の重さを調べる実験、熱せられた水の動き方を調べる実験、乾電池や光電池の性質を利用したおもちゃづくりなどの活動を通して、物の性質や電気の働きなどについて考えることができるようになっている。また、食塩やミョウバンが水に溶ける量を調べる実験、電気チェッカー等の道具を作るものづくりの活動、乾電池等をおもりにしたさおばかりを作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や規則性などについて考えることができるようになっている。 ○ 生命・地球については、ホウセンカの栽培、腕を動かすときの筋肉の様子を観察、日なたと日陰の地面の温度の違いを調べる活動などを通して、生物の成長、人の体のつくりと運動、太陽と地面の様子との関係などについて考えることができるようになっている。また、メダカの飼育、吸い込む空気と吐き出す息の違いを調べる実験、流れる水の量と地面の変化との関係を調べる実験などを通し、生命を愛護するとともに、生命の連続性や生物の体のはたらき、流水の働きなどについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「遮光板」「携帯型双眼実体顕微鏡」「星座早見」「実験用ガスコンロ」「解剖顕微鏡」「メスシリンダー」「気体検知管」「電源装置」などの観察・実験器具の使い方を習得する活動及び風の力を利用して電気をつくる風力発電、フライパンのとなりが熱くならない工夫、肺や肝臓、腎臓等の臓器のつくりや働きを理解するなどの発展的な学習が取り扱われている。
内容の 排列 ・分量 等	○ 内容の構成については、オホーツクの海の流氷の写真や釧路の街灯の写真や函館の夜景の写真を掲載するなどして、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、「月と太陽」では、月の満ち欠けの原因について、観察から得られた月と太陽の位置関係を基に、推論しながら調べられるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3学年が19パーセント増、第4学年が10パーセント増、第5学年が15パーセント増、第6学年が11パーセント増になっている。
使用 上の 配慮 等	○ 「資料」で札幌市時計台のふりこ時計や滝川市で発見されたタキカワカイギュウが取り上げられるなど、児童の学習意欲を高めるように工夫されている。 ○ 「わたしたちの研究」では、調べたいことの計画を立て、調べたことをまとめる方法を示すなど、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 安全の手引や、「注意」「きけん」などのマークを付けたり、生き物や天体のミニ図鑑を資料として記載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

理科調査研究報告書

書名 観点	啓林館 わくわく理科／わくわく理科プラス 3 3 6 3 3 7 4 3 6 4 3 7 5 3 6 5 3 7 6 3 6 6 3 7
取 扱 内 容	○ 物質・エネルギーについては、温度を変えた時の空気・水・金属の体積の変わり方を調べる実験、風で動く車を作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や風の働きなどについて考えることができるようになっている。また、食塩やミョウバンが水に溶ける量を調べる実験や溶かした物を取り出す実験、てこの働きを利用した身近な道具のしくみの観察や、さおばかりを作るものづくりなどの活動を通して、物の性質や規則性などについて考えることができるようになっている。 ○ 生命・地球については、種まきと芽の観察や植物の育つ様子、それぞれの季節における生き物の様子、空気中から水を取り出す実験などを通して、生命を尊重するとともに生物の成長のきまりや季節における生き物の様子、空気中にある水について考えることができるようになっている。また、インゲン豆の発芽の条件調べやヘチマの花のつくりの観察、雲の動きと天気の状態、月と太陽の位置関係の観察などを通して、生命を尊重するとともに、生命の連続性、月の位置や特徴などについて考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「方位磁針」「検流計」「スタンド」「双眼実体顕微鏡」「電源装置」「ピペット」などの観察・実験器具の使い方を習得する活動や、オリンピックの聖火の火が日光でおこされていること、日本海側に降雪が多い理由を季節風や地形と関係付けて理解すること、人の詳しいつくりや小腸、肺等の働きを理解するなどの発展的な学習が取り扱われている。
内 容 の 排 構 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、オホーツク管内にある世界自然遺産である知床や鮭の産卵写真など身近な生活と関連した話題を取り上げ、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、「月と太陽」で月の学習を踏まえたモデル実験や観察などの学習から導入し、資料を活用した学習へと進められるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については総ページ数で、第3学年が43パーセント増、第4学年が48パーセント増、第5学年が57パーセント増、第6学年が50パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「理科の広場」では、三笠市立博物館に展示されているアンモナイトの化石の写真に掲載するなど、児童の学習意欲を高めるように配慮されている。 ○ 「自由研究」では、研究のテーマの決め方、調べ方、まとめ方などを示し、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 生き物や天体、日本の各地域の自然環境を取り上げた資料のページを設ける（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
その他	

生活科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍 どきどくわくわく あたらしいせいかつ 上 あしたへジャンプ 新しい生活 下 131 132
取扱内容	○ 「自分と人々とのかかわり」については、新1年生となる幼児に学校を紹介したり、地域の商店街の人々と交流したりする活動を通して、身近な人々とのかかわりに関心をもち、適切に行動することができるようになっている。 ○ 「自分と社会とのかかわり」については、生活の場となる地域の商店街や公民館などを繰り返し調べたり、利用したりする活動を通して、集団や社会の一員として自分の役割や、行動の仕方について考えることができるようになっている。 ○ 「自分と自然とのかかわり」については、同じ公園を季節ごとに繰り返し訪れ虫探しをしたり、木の実を使ったおもちゃづくりをしたりする活動を通して、自然のすばらしさに気づき、自然を大切にし、自分たちの遊びや生活を工夫できるようになっている。 ○ 「自分自身に関すること」については、学習や生活の場でできるようになったことを振り返ったり、自分や友だちのよさを探したりする活動を通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活できるようになっている。 ○ 「学び方に関すること」については、町探検で調べた店を紹介する作文を書いたり、家族の歴史を巻物にしてまとめたりする活動を通して、体験と言葉をつないで気付いたことや、楽しかったことを表現し考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、確かな学びと指導を支えるための図鑑「ポケットずかん」、資料「べんりてちょう」、単元末に学習を広げる資料「やってみよう」などが取り扱われている。
内容の 構成 ・分量 等	○ 内容の構成については、飼育・栽培において、身近な動植物を取り上げ、児童の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。また、「さっぽろ雪まつり」や札幌市青少年科学館などを取り上げ、北海道とのかかわりをもたせている。 ○ 内容の排列については、スタートカリキュラム「すたあとぶっく」を掲載し、効果的な指導を行い、徐々に各教科に分化していくように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページで、238ページとなっており3パーセント増となっている。
使用上の 配慮等	○ 四季を意識しながら学習を進められるようにしたり、キャラクターが思考を促すヒントを与えたりするなど、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 変形ページにより植物の成長過程を示したり、吹き出しに気づきの具体例を示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 植物の挿絵を実物大で示したり、うがい・てあらいマーク、「やくそく」を付して衛生面・安全面を配慮したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

生活科調査研究報告書

書名 観点	大日本図書 たのしいせいかつ 上 なかよし たのしいせいかつ 下 はっけん 1 3 3 1 3 4
取扱内容 容	○ 「自分と人々とのかかわり」については、地域の農家の人たちに野菜の育て方を教えてもらったり、地域の商店街の人々と交流したりする活動を通して身近な人々との関わりに関心をもち、適切に行動することができるようになっている。 ○ 「自分と社会とのかかわり」については、生活の場となる地域の商店街や図書館などを繰り返し調べたり、利用したりする活動を通して、集団や社会の一員として自分の役割や、行動の仕方について考えることができるようになっている。 ○ 「自分と自然とのかかわり」については、1年を通じて野外で自然に触れる活動を設定し、虫眼鏡を使って虫を観察したり、草花遊びをしたりする活動を通して、自然のすばらしさに気づき、自然を大切にし、自分たちの遊びや生活を工夫できるようになっている。 ○ 「自分自身に関すること」については、成長を振り返り、自分や友だちのよさを探したり、幼かったころの自分について調べたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活できるようになっている。 ○ 「学び方に関すること」については、季節の詩を書いてしおりにしたり、自分の町のよさを紹介する絵地図を作ったりする活動を通して、体験と言葉をつないで気付いたことや、楽しかったことを表現し考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、語彙力の向上のためのコラム「せいかつことば」、単元や巻末に学習や日常生活に必要なスキルをまとめた資料「がくしゅうどうぐばこ」などが取り扱われている。
内容の 排 構 列 成・ 分量 等	○ 内容の構成については、季節に沿った大単元構成で、児童の思考の流れや活動のつながり・広がりに応じた内容を取り扱っている。飼育・栽培においては、身近な動植物を取り上げ、児童の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、スタートカリキュラム「みんななかよし」を掲載し、無理なく学校生活を始められるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページで262ページとなっており、2パーセント減となっている。
使用上の 配慮 等	○ キャラクターが吹き出しで気づきへのヒントを与えたり、透明シートを隠し絵として活用したりするなど、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 単元名を段階を示す表現にしたり、自分たちで考えることを促す表現を多く用いたりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 見開きで活動課題の明確化と意欲喚起のための「木の葉スペース」を設定し、児童の目線で撮影した写真を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

生活科調査研究報告書

書名 観点	学校図書 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 下 135 136
取扱内容 容	○ 「自分と人々とのかかわり」については、新1年生となる幼児に学校を紹介したり、地域の商店街の人々と交流したりする活動を通して、身近な人々とのかかわりに関心をもち、適切に行動することができるようになっている。 ○ 「自分と社会とのかかわり」については、生活の場となる地域の商店街や消防署などを繰り返し訪問したり、調べたりする活動を通して、集団や社会の一員として自分の役割や、行動の仕方について考えることができるようになっている。 ○ 「自分と自然とのかかわり」については、同じ公園を季節ごとに繰り返し訪れて、草花遊びをしたり、木の実を使ったおもちゃづくりをしたりする活動を通して、自然のすばらしさに気づき、自然を大切にし、自分たちの遊びや生活を工夫できるようになっている。 ○ 「自分自身に関すること」については、成長を振り返り、できるようになったことを考えたり、幼かったころの自分について調べたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活できるようになっている。 ○ 「学び方に関すること」については、虫について調べたことを伝える絵カードを作ったり、町探検の結果を壁新聞にしてまとめたりする活動を通して、体験と言葉をつないで気付いたことや、楽しかったことを表現し考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、単元末に学習スキルをまとめた資料「学びかたずかん」や各巻に単元の学習をさらに広げるよう促す資料「チャレンジずかん」などが取り扱われている。
内容の 排 構 成・ 分量 等	○ 内容の構成については、ストーリー性をもたせた活動の中で多くの動植物を取り上げ、児童の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。また、冬の行事として、「さっぽろ雪まつり」を取り上げ、季節ごとの行事に気付かせている。 ○ 内容の排列については、スタートカリキュラム「1ねんせいになったよ」を掲載し、円滑に小学校教育へと接続できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページで260ページとなっており、12パーセント増となっている。
使用上の 配慮等	○ 季節ごとの各地の行事を取り上げたり、共通した4人の登場人物が学習活動を展開させたりするなど、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 各単元を学び方がわかるステップで構成したり、資料「ものしりノート」を設けたりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 四季とのかかわりで学習を見通すことのできる目次や「生きものずかん」、「学びかたずかん」で資料を示すなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

生活科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 せいかつ みんな なかよし 上 せいかつ なかよし ひろがれ 下 1 3 7 1 3 8
取扱内容 容	○ 「自分と人々とのかかわり」については、新1年生となる幼児に学校を紹介したり、公共施設で働く人々と交流したりする活動を通して、身近な人々とのかかわりに関心をもち、適切に行動することができるようになっている。 ○ 「自分と社会とのかかわり」については、生活の場となる地域の商店街や図書館などを繰り返し訪問したり、利用したりする活動を通して、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考えることができるようになっている。 ○ 「自分と自然とのかかわり」については、同じ公園を季節ごとに繰り返し訪れて、草花遊びをしたり、木の実を使ったおもちゃの発表会をしたりする活動を通して、自然のすばらしさに気付き、自然を大切に、自分たちの遊びや生活を工夫できるようになっている。 ○ 「自分自身に関すること」については、成長を振り返り、できるようになったことを考えたり自分や友だちのよさを探したりする活動を通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活できるようになっている。 ○ 「学び方に関すること」については、町探検で調べた店を紹介するポスターを作ったり、複数の意見を付箋紙を使ってまとめたりする活動を通して、体験と言葉をつないで気付いたことや楽しかったことを表現し考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、巻末に学習に必要なスキル等をまとめた資料「ぐんぐんポケット」、季節ごとの動植物の様子を伝える「のはらカレンダー」などが取り扱われている。
内容の 排 構 成・ 分量 等	○ 内容の構成については、飼育・栽培において、身近な動植物を取り上げ、児童の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。また、釧路市の幣舞橋や旭川市の旭山動物園などを取り上げ、北海道とのかかわりをもたせている。 ○ 内容の排列については、スタートカリキュラム「わくわくどきどきしょうがつこう」を掲載し、新生活への期待を高めるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページで234ページとなっており、17パーセント増となっている。
使用上の 配慮 等	○ キャラクターを用いて活動を支援するヒントを与えるなど、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 単元末に自己評価欄や巻末に学習記録を書き込む「生活科ノート」を設けて、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 単元名やねらい、関連資料がわかる紙面のレイアウトや、活動の広がりをもつ「はっ見ヒント」を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

生活科調査研究報告書

書名 観点	光村出版 せいかつ 上 みんな だいすき せいかつ 下 みんな ともだち 1 4 1 1 4 2
取扱 内容 容	○ 「自分と人々とのかかわり」については、新1年生となる幼児に学校を紹介したり、地域のパン屋を取材したりするなどの活動を通して、身近な人々とのかかわりに関心をもち、適切に行動することができるようになっている。 ○ 「自分と社会とのかかわり」については、生活の場となる地域の商店街や図書館などを繰り返し調べたり、利用したりする活動を通して、集団や社会の一員として自分の役割や、行動の仕方について考えることができるようになっている。 ○ 「自分と自然とのかかわり」については、1年を通じて野外で自然に触れる活動を設定し、草花遊びをしたり、木の実を使った遊びをしたりする活動などを通して、自然のすばらしさに気付き、自然を大切に、自分たちの遊びや生活を工夫できるようになっている。 ○ 「自分自身に関すること」については、成長を振り返り、できるようになったことを考えたり、幼かったころの自分について調べたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活できるようになっている。 ○ 「学び方に関すること」については、町探検で調べた店を紹介するポスターを作ったり、自分の成長を巻物にしてまとめたりする活動を通して、体験と言葉をつないで気付いたことや、楽しかったことを表現し考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、学習を広げたり深めたりするための「もっとやってみたい」、季節の動植物の様子を示した「きせつのおくりもの」などが取り扱われている。
内容 の排 構列 成・ 分量 等	○ 内容の構成については、思考の流れを大切にしたホップ・ステップ・ジャンプの3段構成になっている。飼育・栽培においては、身近な動植物を取り上げ、児童の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、スタートカリキュラム「きょうからいちねんせい」を掲載し、安心して小学校生活のスタートが切れるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページで224ページとなっており、5パーセント増となっている。
使用 上の配 慮等	○ 5曲のオリジナルソングを掲載したり、導入で経験と活動を結び付ける言葉を示したりするなど、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 各単元において、活動を深めたり広めたりするヒントを掲載し、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 注意事項等はマークを使い明確に呼びかけたり、様々なタッチのイラストを掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

生活科調査研究報告書

書名 観点	啓林館 わくわく せいかつ 上 せいかつ たんけんブック いきいき せいかつ 下 1 4 3 1 4 4 1 4 5
取扱内容	○ 「自分と人々とのかかわり」については、新1年生となる幼児に学校を紹介したり、地域の菓子店を取材したりする活動を通して、身近な人々とのかかわりに関心をもち、適切に行動することができるようになっていく。 ○ 「自分と社会とのかかわり」については、生活の場となる地域の商店街や図書館などを繰り返し調べたり、利用したりする活動を通して、集団や社会の一員として自分の役割や、行動の仕方について考えることができるようになっていく。 ○ 「自分と自然とのかかわり」については、同じ公園を季節ごとに繰り返し訪れて、草花遊びをしたり、木の実を使ったおもちゃ遊びをしたりする活動などを通して、自然のすばらしさに気づき、自然を大切に、自分たちの遊びや生活を工夫できるようになっている。 ○ 「自分自身に関すること」については、成長を振り返り、できるようになったことを考えたり、幼かったころの自分について調べたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活できるようになっている。 ○ 「学び方に関すること」については、虫について調べたことを壁新聞にまとめたり、複数の意見を付箋紙に書いてまとめたりする活動を通して、体験と言葉をつないで気づいたことや、楽しかったことを表現し考えることができるようになっていく。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、野外活動にかかわることをまとめた別冊の「せいかつたんけんブック」、巻末に学習に必要なスキルを示した「わくわくずかん」などが取り扱われている。
内容の構成・分量等	○ 内容の構成については、飼育・栽培において、身近な動植物を取り上げ、児童の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。また、「さっぽろ雪まつり」を取り上げ、季節ごとのいろいろな行事に気付かせるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、スタートカリキュラム「いちねんせいになったよ」を掲載し、学校が安心できる楽しい場所と実感できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページで307ページとなっており、10パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 活動や気づきのヒントをキャラクターの吹き出しや文章で示し、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 各単元を4段階で構成したり、自分の考えを直接書き込むページを設けたりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻末の資料や別冊との関連を示すマークや活動の段階を示すマークを付すなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

生活科調査研究報告書

書名 観点	日本文教出版 わたしとせいかつ 上 みんななかよし わたしとせいかつ 下 ふれあいだいすき 146 147
取扱内容 容	○ 「自分と人々とのかかわり」については、新1年生となる幼児に小学校を紹介したり、地域で働いている人々と交流したりする活動を通して、身近な人々とのかかわりに関心を持ち、適切に行動することができるようになっている。 ○ 「自分と社会とのかかわり」については、生活の場となる地域の商店街や図書館などを調べたり、利用したりする活動を通して、集団や社会の一員として自分の役割や、行動の仕方について考えることができるようになっている。 ○ 「自分と自然とのかかわり」については、同じ公園を季節ごとに繰り返し訪れ、草花遊びをしたり、木の実を使ったおもちゃづくりをしたりする活動を通して、自然のすばらしさに気づき、自然を大切にし、自分たちの遊びや生活を工夫できるようになっている。 ○ 「自分自身に関すること」については、成長を振り返り、できるようになったことを考えたり、自分や友だちのよいところを探したりする活動を通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活できるようになっている。 ○ 「学び方に関すること」については、自分たちで飼育した動物へ手紙を書いたり、自分の成長を巻物にしてまとめたりする活動を通して、体験と言葉をつないで気付いたことや、楽しかったことを表現し考えることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、いろいろな草花遊びをまとめた「くさばなあそびずかん」、季節の行事をまとめた「きせつだより」などが取り扱われている。
内容の 排 構 成・ 分量 等	○ 内容の構成については、飼育・栽培において、身近な動植物を取り上げ、児童の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるように配慮されている。また、「くしろふゆまつり」や旭川市科学館などを取り上げ、北海道とのかかわりをもたせるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、スタートカリキュラム「いちねんせいになったら」を掲載し、安心して学校生活をスタートできるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、総ページで270ページとなっており、15パーセント増となっている。
使用上の 配慮 等	○ 単元構成にストーリー性をもたせたり、児童のつぶやきや教師のせりふでヒントや問いを与えたりするなど、児童の学習意欲が高まるように配慮されている。 ○ 活動のきっかけや視点のヒントを与える絵カードを単元末に掲載するなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 学年進行に合わせて成長する主人公を設定したり、側欄で注意などを示すマークを設定したりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

音楽科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 音楽のおくりもの 1 3 1 2 3 1 3 3 1 4 3 1 5 3 1 6 3 1
取 扱 内 容	○ 歌唱については、例えば第 1, 2 学年では、遊びながら体を動かして歌ったり、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら楽曲の気分を感じ取ったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を身に付け、音楽表現の楽しさに気付くことができるようになっていく。 ○ 器楽については、例えば第 3, 4 学年では、打楽器や和太鼓、リコーダーなどを用いて曲想にふさわしい表現を工夫したり、音の重なりを気付けて演奏したりする活動を通して、基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取ることができるようになっていく。 ○ 音楽づくりについては、例えば第 5, 6 学年では、音楽の仕組みを生かしながら、つくる音楽の形や方法を考えたり、まとまりのある音楽をつくったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうことができるようになっていく。 ○ 鑑賞については、例えば第 5, 6 学年では、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造を理解して聴いたりしながら書く活動を通して、様々な音楽に親しみ、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くことができるようになっていく。 ○ 〔共通事項〕については、例えば第 3, 4 学年では、旋律の特徴を生かして演奏したり、曲の流れを感じ取って聴いたりする活動を通して、音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようになっていく。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、図形化した旋律を見ながら鑑賞したり、感じ取った音楽を形づくっている要素を記入したりするなど、各ページに示された〔共通事項〕を取り上げて基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する活動が取り上げられている。例えば、第 3 学年では「せんりつと音色」、第 4 学年では「音楽のききどころ」などが取り扱われている。
内 容 の 構 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、わらべうた、郷土の音楽、日本の伝統的な音楽等を取り上げたり、透明シートを効果的に用いたりするなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、〔共通事項〕を感じ取る力を身に付ける学習の後に、言葉と音楽とのかかわりなどを理解し、音楽表現を深める学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、第 5 学年では、歌唱の教材数は 3 1、器楽の教材数は 1 5、音楽づくりの教材数は 3、鑑賞の教材数は 7 2 であり、総ページ数は 7 8 ページで、前回より 1 1 パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 巻頭・巻末に豊富な資料を掲載したり、北海道民謡の「ソーラン節」を歌唱と器楽の教材として取り上げたりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 目次の主要教材ごとに、「学習のねらい」や〔共通事項〕を示したり、活動のポイントを示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 各学年で学習した〔共通事項〕のまとめや、運指表や音符・休符、記号などを折り込みページに掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

音楽科調査研究報告書

書名 観点	教育芸術社 小学校音楽 1 3 2 2 3 2 3 3 2 4 3 2 5 3 2 6 3 2
取 扱 内 容	○ 歌唱については、例えば第 1,2 学年では、遊びながら拍の流れにのって体を動かして歌ったり、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌ったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を身に付け、音楽表現の楽しさに気付くことができるようになっていく。 ○ 器楽については、例えば第 3,4 学年では、打楽器や和太鼓、鍵盤楽器やリコーダーなどを用いて曲想にふさわしい表現を工夫したり、音色に気を付けて演奏したりする活動を通して、基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取ることができるようになっていく。 ○ 音楽づくりについては、例えば第 5,6 学年では、音楽の仕組みを生かしながら、リズムを工夫したり、曲のまとまりに気を付けながら旋律をつくったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうことができるようになっていく。 ○ 鑑賞については、例えば第 5,6 学年では、曲想や音色の変化などの特徴を感じ取ったり、歌詞と旋律のかかわりに着目して聴いたりする活動を通して、様々な音楽に親しみ、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くことができるようになっていく。 ○ 「共通事項」については、例えば第 3,4 学年では、拍の流れや旋律を感じて演奏したり、楽曲の特徴を感じ取って聴いたりする活動を通して、音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようになっていく。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、歌唱教材で学習した音楽の仕組みを利用して音楽づくりをしたり、「こころのうた」に示された音楽の要素を理解したりするなど、「共通事項」を取り上げて基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する活動が取り上げられている。例えば、第 3 学年では「海風きって」、第 4 学年では「歌のにじ」などが取り扱われている。
内 容 の 構 成 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、わらべうた、郷土の音楽、日本の伝統的な音楽等を取り上げたり、各学年の発達段階に応じたテーマで特集を設けたりするなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、音楽の特徴や「共通事項」を感じ取る力を身に付ける学習の後に、多様な音楽の魅力を味わいながら自分たちの音楽表現を深める学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第 5 学年では、歌唱の教材数は 27、器楽の教材数は 10、音楽づくりの教材数は 2、鑑賞の教材数は 11 であり、総ページ数は 75 ページで、前回より約 4 パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「音楽プリズム」や「音楽の歴史をつくった人」を位置付けたり、北海道民謡の「ソーラン節」を鑑賞教材として取り上げたりするなど、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。 ○ 目次の主要教材ごとに、ねらいに迫るための具体的な学習目標を示したり、吹き出しにより活動のヒントを示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 鍵盤楽器の指使いをイラストや写真により示したり、その学年で押さえておきたい学習内容を巻末にまとめたりするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

図画工作科調査研究報告書

書名 観点	開隆堂出版 小学校図画工作					
	1 3 1	1 3 2	3 3 1	3 3 2	5 3 1	5 3 2
取 扱 内 容	○ 材料を基に造形遊びをする活動については、木の葉をちぎり石を並べるなど、自然物を操作したり、自分たちの好きな場所をビニールシートやテープなど身近な素材を用いて作り上げたりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度、創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。 ○ 表したいことを絵や立体、工作に表す活動については、インクや墨などいろいろな材料を用いて絵に表したり、色づくりや筆使いなどを工夫して木を描いたり、空き箱や木を用いて立体を表したりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度・創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。 ○ 作品などを鑑賞する活動については、友達の作品の工夫を見つけたり、互いの感じ方の違いを交流したり、互いの作品の特徴を話し合ったりする学習活動を取り上げ、面白さや楽しさ、よさや美しさを感じ取ることができるようになっている。 ○ 共通事項については、好きな形に目や手足を付けてマークをつくったり、紙粘土に色を練り込んで生活に使える楽しい形を表現したり、接写した写真の色や形からイメージを膨らませたりする活動を通して、形や色などの感じや造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つような学習活動が取り上げられている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、のこぎりや金槌を使う作業を設け、道具の使い方に慣れることができるように工夫されている。例えば、第 3,4 学年では「トントんつないで」、第 5,6 学年では「わたしはデザイナー 1 2 才の力で」などが取り扱われている。					
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、土や砂などの材料や方法について、学校や地域の実態に応じて選択できるように配慮されている。また、北海道に関連した冬の造形遊びが取り扱われている。 ○ 内容の排列については、例えば素材について色紙から色画用紙、ボール紙へと、発達段階に応じて発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、たとえば第 1,2 学年では「材料を基に造形遊びをする活動」が 10 ページ、「表したいことを絵や立体、工作に表す活動」が 63 ページ、「作品などを鑑賞する活動」が 24 ページとなっている。					
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「小さな美術館」と「ゆめをかたちに」を設け、児童の興味・関心に合わせた作家の作品とメッセージを掲載し、意欲を高める工夫がなされている。 ○ 基礎的・基本的な内容や授業の振り返りを囲みで示すなど、児童が主体的に取り組むことができるように工夫されている。 ○ 必要な知識や、題材ごとに培いたい力を示すマークを掲載したり、紙面全体の配色や写真の配置を工夫したりするなど、使用上の便宜が図られている。					
その他	○判型はA 4 サイズを採用している。					

図画工作科調査研究報告書

書名 観点	日本文教出版 小学校図画工作					
	1 3 3	1 3 4	3 3 3	3 3 4	5 3 3	5 3 4
取 扱 内 容	○ 材料を基に造形遊びをする活動については、身近な場所を自然や人工の材料を用いて変身させたり、風や水の動きとその効果を考えて美しい空間を構成したりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度・創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。 ○ 表したいことを絵や立体、工作に表す活動については、心に残る出来事や場所を絵に描いたり、すごろくなどの楽しく遊べるものをつくったり、ダンボールや板材で楽しむものを作ったりする学習活動を取り上げ、進んで表す態度や表現する態度、創造的に表現する態度を身に付け、つくりだす喜びを味わうことができるようになっている。 ○ 作品などを鑑賞する活動については、美術作品の人物の動作を真似たり、お気に入りのものをならべたり、美術作品やいろいろな模様をカードにして友達と話し合ったりする学習活動を取り上げ、面白さや楽しさ、よさや美しさを感じ取ることができるようになっている。 ○ 共通事項については、紙を切る・ちぎるなどして生まれた形を基に絵に表したり、光にいろいろなものをあてて、楽しい影の形に表したり、液体粘土で布を瞬間的に固めた形から想像を広げて表したりする活動を通して、形や色などの感じや造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつような学習活動が取り上げられている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、のこぎりや電動糸鋸を使う活動を設け、道具の使い方に慣れることができるように工夫されている。例えば、第3,4学年では「ギコギコクリエイター」、第5,6学年では「一枚の板から」などが取り扱われている。					
内容 の構 成 排 列・ 分 量 等	○ 内容の構成については、段ボールや新聞紙などの材料や方法について、学校や地域の実態に応じて選択できるように配慮されている。また北海道に関連した彫刻作品が取り扱われている。 ○ 内容の排列については、例えば素材について、色紙から画用紙、ダンボールへと、発達段階に応じて発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、たとえば第1,2学年では「材料を基に造形遊びをする活動」が16ページ、「表したいことを絵や立体、工作に表す活動」が72ページ、「作品などを鑑賞する活動」が24ページとなっている。					
使 用 上 の配 慮 等	○ 形や色の美しさを味わう「ぞうけいのもり」「教科書美術館」や自由にイメージを広げる「図画工作の広がり」を掲載し、意欲を高める工夫がされている。 ○ 発想や鑑賞をする際の視点を吹き出しなどで表すなど、児童が主体的に取り組むことができるように工夫されている。 ○ 材料や用具についての説明を示すマークを掲載したり、紙面のデザインや文字の色を工夫したりするなど、使用上の便宜が図られている。					
その他	○ 判型はA4レターサイズを採用している。					

体育科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍 新しい保健 3 3 1 5 3 1
取 扱 内 容	○ 第3,4学年の「毎日の生活と健康」については、健康に過ごすための1日の生活について考えたり、身の回りの環境の整え方について考えたりする活動を通して、健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解することができるようになってきている。 「育ちゆく体とわたし」については、現在までの自分の身長を調べたり、思春期における体の変化について調べたりする活動を通して、体の発育・発達について理解することができるようになってきている。 ○ 第5,6学年の「心の健康」及び「けがの予防」については、心と体が影響し合っていることについて考えたり、犯罪が起りやすい場所について考えるたりする活動を通して、心の発達及び不安、悩みへの対処やけがの予防について理解することができるようになってきている。 「病気の予防」については、感染症や生活習慣病の予防の仕方について考えたり、喫煙や飲酒、薬物が健康に及ぼす影響について調べたりする活動を通して、病気の予防について理解することができるようになってきている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第3,4学年は、事例を基に生活習慣や身の回りの環境について改善点を見付けたり、栄養のバランスがとれた朝食のメニューを選んだりするなど、知識を活用する活動が取り扱われている。 第5,6学年は、事例を基に不安や悩みへの対応の仕方やけがの防止の仕方について考えたり、喫煙や飲酒、薬物を勧められたときの断り方を考えたりするなど知識を活用する活動が取り扱われている。
内容の構成 ・分量等	○ 内容の構成については、自分の身長の変化について調べたり、地域の危険な場所について考えたりするなど、実生活に生かすことができるよう配慮されている。 ○ 内容の排列については、第5,6学年において身近な生活における健康・安全について学習した後、健康に関する目標を立てる活動を位置付け、中学校での指導に結び付けるようにするなど、系統的・発展的な学習ができるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、第3,4学年では前回と同様となっている。第5,6学年では、前回より約4パーセント増となっている。
使用上の配慮等	○ 資料として「まめちしき」等を掲載したり、各章末の「広げよう」に今日的課題等を掲載したりするなど、児童の学習意欲を高めるよう工夫されている。 ○ 「話し合ってみよう」など、活動内容が一目でわかるようにするなど、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 記述欄を設け、個々の考えを記入できるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

体育科調査研究報告書

書名 観点	大日本図書 新版 たのしい保健 3 3 2 5 3 2
取 扱 内 容	○ 第3,4学年の「毎日の生活と健康」については、自分の1日の生活を振り返り規則正しい生活について考えたり、身の回りの環境の整え方について考えたりする活動を通して、健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解することができるようになっている。 「育ちゆく体とわたし」については、現在までの自分の体格の変化を調べたり、思春期の体の変化について考えたりする活動を通して、体の発育・発達について理解することができるようになっている。 ○ 第5,6学年の「心の健康」及び「けがの予防」については、不安や悩みに関する自分の経験を振り返ったり、犯罪被害に遭わない行動の仕方を考えたりする活動を通して、心の発達及び不安、悩みへの対処やけがの予防について理解することができるようになっている。 「病気の予防」については、生活習慣病の予防に関する自分の経験を振り返ったり、喫煙や飲酒、薬物が健康に及ぼす影響について調べたりする活動を通して、病気の予防について理解することができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第3,4学年は、健康によい生活を送るために自分が気を付けることを考えたり思春期の体や心が変化する時期の生活の仕方について考えたりするなど、知識を活用する活動が取り扱われている。 第5,6学年は、自分が不安や悩みをもったときの対処の仕方について考えたり喫煙や飲酒、薬物などを勧められたときの断り方を考えたりするなど、知識を活用する活動が取り扱われている。
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、身長の変化を調べたり、心や体の発達において自分のよさを見付けることができるなど、実生活に生かすことができるようになっている。 ○ 内容の排列については、第5,6学年において喫煙による健康への害を学習した後、人から勧められたときの断り方を学習する活動を位置付け、飲酒や薬物も同様の流れで繰り返し学習できるようにするなど、系統的・発展的な学習ができるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、第3,4学年では前回と同様となっている。第5,6学年では、前回より9パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 各単元の導入で、学習をナビゲートするゲームや、「ミニちしき」などを掲載するなど、児童の学習意欲を高めるよう工夫されている。 ○ 課題を解決していくための思考を促す投げかけを、子どものキャラクターの吹き出しで示すなど、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 自分の成長の変化に興味・関心をもって学習することができるシールを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

体育科調査研究報告書

書名 観点	文教社 わたしたちの保健 3 3 3 5 3 3
取 扱 内 容	○ 第3,4学年の「毎日の生活と健康」については、生活リズムの見直しを考えたり、体を清潔にするために気を付けていることを振り返ったりする活動を通して健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解することができるようになっている。 「育ちゆく体とわたし」については、自分の体格の変化や発育の個人差について調べたり、思春期における異性とのかかわり方について考えたりする活動を通して、体の発育・発達について理解することができるようになっている。 ○ 第5,6学年の「心の健康」及び「けがの防止」については、不安や悩みに関する自分の経験を振り返ったり、けがの防止を防ぐためのめあてを考えたりする活動を通して、心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方やけがの防止について理解することができるようになっている。 「病気の予防」については、病原体が主な要因となって起こる病気の予防について考えたり、喫煙や飲酒、薬物などが健康に及ぼす影響について考えたりする活動を通し、病気の予防について理解することができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第3,4学年は、自分の生活調べを通して生活リズムを見直す点について考えたり、よりよい発育のために心掛けたいことを考えたりするなど、知識を活用する活動が取り扱われている。 第5,6学年は、自分の学校の「校内安全点検」や地域の安全点検をしたり、自分が食べているおやつの脂肪分や塩分の量を調べたりするなど、知識を活用する活動が取り扱われている。
内容 の構 成 排 成 列・ 分量 等	○ 内容の構成については、自分の1週間の生活調べをして、生活リズムを見直したり、地域で安全に過ごす仕方を考えたりするなど、実生活に生かすことができるようになっている。 ○ 内容の排列については、第5,6学年では思春期の心の健康について学習した後、友達への不安や悩みへのアドバイスを考える学習を位置付け、自分から他者へと考える視野を広げられるよう、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、第3,4学年では前回と同様となっている。第5,6学年は、前回より10パーセント増となっている。
使用 配 上 慮 の等	○ 児童が親しみやすい子どものキャラクターを用いたり、「情報コーナー」を設けたりして、児童の学習意欲を高めるよう工夫されている。 ○ 「考えてみよう」で学習方法を示したり、課題解決に結び付く視点やヒントを示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 多様な記入欄を設け、書き込む活動を通して、主体的に楽しみながら学習できるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

体育調査研究報告書

書名 観点	光文社 見つめよう健康 3 3 4 5 3 4
取 扱 内 容	○ 第3,4学年の「毎日の生活と健康」については、1日の生活を振り返り生活時間表を作ったり、身の回りの環境の整え方について考えたりする活動を通して健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解することができるようになっている。 「育ちゆく体とわたし」については、個人による身長伸び方の違いを調べたり思春期における男女の体の変化を比べたりする活動を通して体の発育・発達について理解することができるようになっている。 ○ 第5,6学年の「心の健康」及び「けがの防止」については、心と体の関係について考えたり、危険を予測し、安全な行動の仕方について考えたりする活動を通して心の発達及び不安、悩みへの対処やけがの防止について理解することができるようになっている。 「病気の予防」については、病原体が主な要因となって起こる病気の予防の仕方について考えたり、喫煙などが健康に及ぼす影響について考えたりする活動を通して、病気の予防について理解することができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探求への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第3,4学年では、自分のこれからの生活や体の清潔を保つことについて気を付けたことを考えたり、毎日続けられる自分に合った運動について考えたりする等の工夫がなされている。 第5,6学年では、身の回りにある危険から身を守るための対処の仕方について考えたり、喫煙や飲酒などを勧められたときの断り方を考えたりする等の工夫がなされている。
内容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、自分の身長の変化を調べたり、心や体の発達において自分のよさを見付けたりするなど、実生活に生かすことができるように配慮されている。 ○ 内容の排列については、第5,6学年で交通事故の防止について学習した後、安全な行動の仕方について学習する活動を位置付け、犯罪被害の防止も同様の流れで学習できるようにするなど、系統的・発展的に学習ができるような工夫がされている ○ 内容に分量については、第3,4学年では前回と同様となっている。第5,6学年は、前回より9パーセント増となっている。
使用 上 の 配 慮 等	○ 健康に関する今日的な話題などを「保健の広場」として掲載するなど、児童の学習意欲を高める工夫されている。 ○ 児童キャラは児童の立場でサポート、養護教諭などのキャラは専門的な助言をするなど、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 既習の内容について、確認・復習などのマークを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

体育科調査研究報告書

書 名 観 点	学研 みんなの保健 3 3 5 5 3 5
取 扱 内 容	○ 第3,4学年の「毎日の生活と健康」については、生活の仕方による心や体の調子の変化について振り返ったり、手や下着などの汚れを調べたりする活動を通して、健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解することができるようになっている。 「育ちゆく体とわたし」については、台紙を使って自分の身長伸びを調べたり、給食の献立を調べたりする活動を通して、体の発育・発達について理解することができるようになっている。 ○ 第5,6学年の「心の健康」及び「けがの防止」については、事例を基に自分の気持ちの伝え方を考えたり、事故が起こりやすい行動について予測したりする活動を通して、心の発達及び不安、悩みへの対処やけがの防止について理解することができるようになっている。 「病気の予防」については、病原体が主な要因となって起こる病気の予防について考えたり、喫煙や飲酒、薬物などが健康におよぼす悪影響について調べる活動を通して、病気の予防について理解することができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第3,4学年では、身の回りの生活環境を整えるために自分が気を付けることを考えたり、体がよりよく成長するために自分が実行することを考えたりするなど、知識を活用する活動が取り扱われている。 第5,6学年では、身の回りの事故や犯罪が起こりやすい場所を調べて、地域の安全マップ作りをしたり、飲酒や喫煙などを勧められた時の断り方を考えたりするなど、知識を活用する活動が取り扱われている。
分内 量容 等の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成について、自分の生活を振り返り、健康な生活について考えたり、地域の安全マップを作ったりするなど、実生活に生かすことができるよう配慮されている。 ○ 内容の排列については、第5,6学年で心と体のつながりを学習した後思春期の不安や悩みについて考える学習を位置付け、心と体のつながりについて関連が図れるよう、系統・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、第3,4学年では前回より約32%増になっている。第5,6学年は、前回より約29パーセント増になっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ 学習の見通しをもてるよう、学習課題を各項目のタイトルの近くに示すなど、学習意欲を高めるよう工夫されている。 ○ 学習したことを家庭や地域などで確かめたり、調べたりする活動のヒントが随所に設けられ、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 科学的な理解に結びつく「見えないものが見える化」した資料（科学の目）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

家庭科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍 新編 新しい家庭 5 3 1
取 扱 内 容	○「A家庭生活と家族」については、第5学年において団らんや家庭生活を見つめる活動や、第6学年において生活時間の工夫、家族の一員として家庭や地域でできることを考える活動などを取り上げており、家庭生活を支えているものを理解し、家庭生活と家族の大切さに気付くことができるようになっている。 ○「B日常の食事と調理の基礎」については、第5学年においてサラダやご飯とみそ汁、第6学年において栄養のバランスのよい朝食のおかずづくり、家族が喜ぶ一食分の献立を工夫する活動などを取り上げており、食生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができるようになっている。 ○「C快適な衣服と住まい」については、第5学年において小物入れなどの製作や掃除をする活動、第6学年において洗濯などの衣服の手入れ、冬を快適に過ごす工夫を考える活動を取り上げており、衣生活や住生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができるようになっている。 ○「D身近な消費生活と環境」については、第5学年において「ノートの買い方」など買い物の仕方を考える活動や、第5、6学年において、衣食住の生活と関連させた環境を大切にする工夫を考える活動を取り上げており、物の選び方や金銭の使い方、環境に配慮した生活の仕方についての関心を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得・活用・探究への対応については、「カラフルコンビネーションサラダ」「ウォールポケット」など、調理や製作の基礎的・基本的な知識・技能を習得させる実習題材や、「家族が喜ぶ食事をつくろう」「トートバッグをつくろう」など習得した知識・技能を活用するための具体的な活動例が取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、学習内容が14の大題材（42の小題材）で構成され、各領域を関連づけて学習を深めていけるよう配慮されている。 ○ 内容の排列については、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習を扱うなど、2年間を通して系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、「A家庭生活と家族」の大題材数は3、小題材数は9、「B日常の食事と調理の基礎」の大題材数は4、小題材数は12、「C快適な衣服と住まい」の大題材数は6、小題材数は18、「D身近な消費生活と環境」の大題材数は1、小題材数は3であり、総大題材数は14になっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ マークやコラム欄によって興味・関心をもたせ、ワークシート例を掲載し学習活動を促すなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「自由研究」を示し、長期休業中における家庭と連携を図った活動を促すなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○ 字体や配色を工夫するとともに、実習、実験における安全や衛生に留意しながら学習を進めるため「安全」マークを示すなど使用上の便宜が図られている。
その他	

家庭科調査研究報告書

書名 観点	開隆堂 小学校 わたしたちの家庭科 5 3 2
取 扱 内 容	○「A家庭生活と家族」については、第5学年において団らんや家庭生活を工夫する活動や、第6学年において生活時間の工夫や、家族の一員として家庭や地域でできることを考える活動などを取り上げており、家庭生活を支えているものを理解し、家庭生活と家族の大切さに気付くことができるようになっている。 ○「B日常の食事と調理の基礎」については、第5学年においてサラダやご飯とみそ汁づくり、第6学年において朝食に合うおかずづくり、栄養のバランスのよい一食分の献立を考える活動を取り上げており、食生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができるようになっている。 ○「C快適な衣服と住まい」については、第5学年においてカード入れなどの製作や冬を快適に過ごす工夫を考える活動、第6学年において掃除や洗濯などの活動を取り上げており、衣生活、住生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができるようになっている。 ○「D身近な消費生活と環境」については、第5学年において「買い物名人〇か条」など買い物の仕方を考える活動や、第5、6学年において、衣食住の生活と関連させ環境に配慮することの大切さに気付く活動を取り上げており、物の選び方や金銭の使い方、環境に配慮した生活についての関心を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができるようになっている。 ○ 知識・技能の習得・活用・探究への対応については、「カラフルゆで野菜サラダ」や「ランチョンマット」など、調理や製作の基礎的・基本的な知識・技能を習得させる実習題材や、「身近な食品でおかずをつくろう」「マイバッグをつくろう」など、習得した知識・技能を活用するための具体的な活動例が取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	○ 内容の構成については、学習内容が17の大題材（42の小題材）で構成され、各領域を関連づけて学習を深めていけるよう配慮されている。 ○ 内容の排列については、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習を扱うなど、2年間を通して系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量については、「A家庭生活と家族」の大題材数は4、小題材数は7、「B日常の食事と調理の基礎」の大題材数は4、小題材数は12、「C快適な衣服と住まい」の大題材数は7、小題材数は17、「D身近な消費生活と環境」の大題材数は2、小題材数は6であり、総大題材数は17になっている。
使 用 上 の 配 慮 等	○ マークやコラム欄によって興味・関心をもたせ、実習・製作においては手順を詳細に写真や図で示し、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「チャレンジコーナー」を示し、長期休業中における家庭と連携を図った活動を促すなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がされている。 ○ レイアウトや配色を工夫するとともに、安全や衛生に留意しながら学習を進めるため、「安全」マークを示すなど使用上の便宜が図られている。
その他	